

パッシブ制振構造設計・施工マニュアル 第4版別冊1 正誤表

Rev.1 追加 2025/10/28

頁	節	行	誤	正
I-25	1.7	図 1.7.6	図 1.7.6 ガセットプレートの面外変形拘束	図 1.7.6 ガセットプレートの面外変形拘束
I-34	2.3	図番号	図 2.6	図 2.3.6
I-34	2.3	図 2.3.7 の 上 の 図	図 2.3.7 付加係数-層間変形関係	図 2.3.7 付加係数-層間変形関係
I-47	4.1.3	図 4.1.3 の 右 式	図 4.1.3 オイルダンパーのフランジ	フランジ(FCD500) 板厚 t_f $w = 190 \text{ mm}$, $t_f = 75 \text{ mm}$ $l = 118 \text{ mm}$, $l_1 = 57 \text{ mm}$, $l_2 = 61 \text{ mm}$, $Z_p = 190 \times 752 / 4 = 267,188 \text{ mm}^3$ $\sigma_y \geq 320 \text{ N/mm}^2$ $M_p = 320 \times 267,188 / 1,000,000 = 85.5 \text{ kN} \cdot \text{m}$ 高力ボルト 8-M27 (F10T) 短期許容引張耐力 $p_{bt} = 266 \text{ kN/本}$
I-57	4.2.4	5 行目	別冊 1-4 の粘性体制振装壁による	別冊 1-IV の粘性体制震壁による
I-67	4.3.3	図 4.3.3	図 4.3.3 コの字金物	図 4.3.3 コの字金物
I-79	4.5.2	6 行目	鋼構造制振設計指針	「鋼構造制振設計指針」 ⁵⁾

頁	節	行	誤	正
II-1	1 章	1 行目	別冊 1-2	別冊 1- II
II-19	実施例 3	下から 4 行目	グラントライン	グラント レベル
II-20	実施例 3	図 3.2	〔方位表示抜け〕	 〔オフィス階平面図の 左下に追加〕
III-1		4 行目	急速に発展したきた。	急速に発展 して きた。
III-1		5 行目	意味している考えられる。	意味している と 考えられる。
III-44	3.3.4.1	14 行目	実験モデルと比べると剛性は約 0.7s (=0.044 H) の 1.4 倍、つまり約 0.5 倍であり、	実験モデルと比べると 固有周期 は 約 0.7s (=0.044 H) の 1.4 倍、つまり 剛性は 約 0.5 倍であり、
IV-43		最下行	$\beta_1=0.00004T^2-0.039T+1.62$ (10)	$\beta_1=$ 0.0004 $T^2-0.039T+1.62$ (10)
IV-88		図-3	図-3 摩擦力の振動数依存性	図-3 摩擦力の 速度 依存性

<正誤表更新履歴>

Rev.1 修正：2025/10/28